



ワカモノ記者

ワカモノ記者 × 前橋の地域若者会議 地域づくりを考える若者たち

市民が作る
市民編集のページ
Vol.131

大崎帽子店
弁天通り



今回は前橋の地域若者会議を取材。地域若者会議は、「地域をもっと盛り上げたい！地域のために何か活動したい！」など地域づくりに思いを持った若者が集う団体です。地域活動にあまり縁がないといわれる18歳から35歳までの、若者層で構成。月1回定例会議を開催し、毎回テーマに沿って地域づくりのためのアイデアを出し合います。毎年一つの地区をピックアップして地域づくりの取り組みを検討・実施していて、現在は天川地区をフィールドとして自分たちに何ができるかを話し合い、実行しています。18歳から35歳であれば誰でも参加できるので気になった人はぜひ定例会議に参加してみてください。

8月定例会議
日時=8月22日(木)19時~21時
会場=中央公民館504学習室
申し込み=当日会場へ直接



地区の現状と地域若者会議が地区でやりたいことを話し合い実現の可能性を探ります。



天川地区の地域づくり協議会の皆さんと意見交換を行いました。

ワカモノ記者は今回、中央地区で行われたまち歩き企画「行ってみようQのまち」立川町大通り・オリオン通り」に参加しました。まち歩き企画は地域若者会議が昨年度から継続的に実施しているもので、今回で4回目。共愛学園前橋国際大の学生も加わり、総勢約30人でまちなかを歩き、その魅力に触れました。

まち歩きで知った 前橋のまちなかのこと

古くから地元の人に愛される「金子帽子店」では、店主が帽子の歴史などを生き生き話してくれました。お店や商店街を大切に思う気持ちや伝わってきてこれからも地域の皆に愛されるお店であり続けてほしいと感じました。

珍しい食品や手作りの小物などが並ぶ「不思議なお店」はひきこもり当事者の支援を行うNPOが、彼らの居場所を作ろうとしたのをきっかけに始まった場所。店長は日替わりで、各々が販売したいものを自由に売っています。店内には、緩やかな時間が流れ、こんな

素敵な場所があったのかと新たな発見をすることができました。シェアハウス「共同亀屋住宅」は前橋工科大の学生や、同大出身の社会人などが居住。共有スペースのこたつや棚はなんと手作りだそうです。ワクワクを求めてまちなかのシェアハウスに住む人が集まっています。まち歩きに参加し感じたのは前橋のまちなかをより身近に思えること。地域若者会議の皆さんはこうして実際にまちに出て、まちの人の声を聞き、もっとまちをこう

したいなどのアイデアを生み出しているんですね。やりたいことでも前橋を盛り上げる。今回まち歩きに参加した若者会議のメンバーに話を聞きました。高校進学を機に前橋の商店街に通うようになったメンバーは、お世話になった商店街に恩返しをしたいという思いで地域若者会議に参加したそうです。今後は、ふと前橋のまちを思い出さずかけとなるような、訪れた人の記憶に残る活動をしたという言葉が印象

的でした。また、知人に誘われ活動を始めたメンバーは、活動をおしてさまざまな職業の人との出会いや発見がある、楽しい活動だと話してくれました。地域若者会議は、異なるバックグラウンドを持った人々をつなぎ、前橋の未来につなげる活動です。「やらなきゃ」ではなく、自分たちが「したい」ことをして前橋を盛り上げるというスタンスが、地域若者会議の活動が続いていく理由だと感じました。



1 まち歩きの前に自己紹介。 2 参加者の学生と会話を楽しみながらまち歩き。交流の輪が広がります。 3 老舗の帽子店。昔のまちの様子を聞くことができました。 4 一見風変わりなお店ですが、店内には緩やかな時間が流れています。 5 互いの友人たちとの交流の場にもなっているというシェアハウス。

編集後記

地域若者会議を取材したことで自分も前橋のためにできることはないだろうかという思いが大きくなりました。



吉田

古くからお店を構え、前橋の商店街の歴史をともにしてきた方の話を聞くことで商店街の歴史を感じ、感慨深い気持ちになりました。



高橋